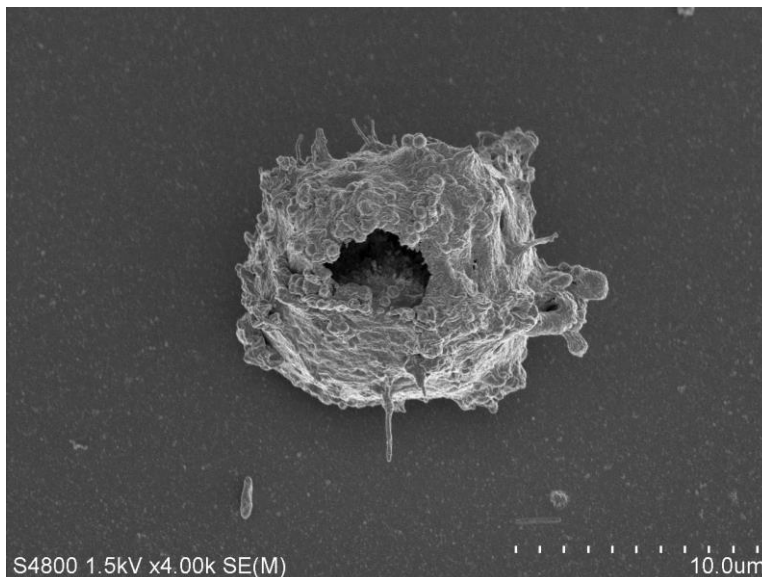


cell line	cell type	細胞傷害活性 (%/2時間)
L428	Hodgkin lymphoma	92
Daudi	Burkitt lymphoma	56
C1R	B cell lymphoma	65
HT	B lymphoblast	68
ATL-55T	ATL	52
ATL-2	ATL	73
ED-40810	ATL	69
正常人末梢血		0

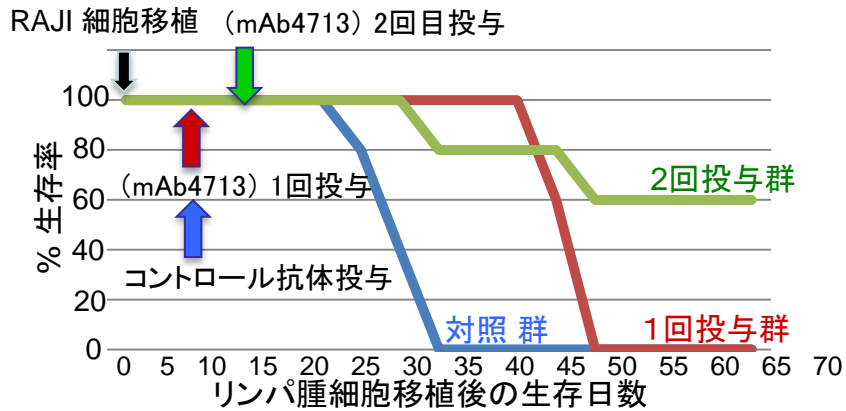
**図1: 各種リンパ腫由来の細胞に抗体(mAb4713)を添加した細胞障害活性計測の結果**

ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫の代表的な細胞株や悪性度の高い成人T細胞白血病(ATL)の細胞株に抗体(mAb4713)を添加して2時間以内に何%の細胞が死ぬかを示している。いずれの悪性リンパ腫細胞や成人T細胞白血病細胞にも高い細胞障害活性を示した。



**図2: 抗体(mAb4713)はがん細胞に大きな穴をあけて破壊する**

ホジキンリンパ腫細胞への抗体(mAb4713)投与後に撮影した電子顕微鏡像では、細胞中央に巨大な穴が形成されている。僅か30分で従来の補体を利用した細胞死やパーフォリンがあける穴の200倍の直径の穴が形成されることから、速く強い細胞傷害活性が認められる。



**図3: マウスにヒトバーキットリンパ腫細胞を移植した系での生存曲線**

免疫不全マウスにバーキットリンパ腫の細胞株 (RAJI 細胞) を生着させ、1回または2回抗体 (mAb4713) を静脈注射したところ、コントロール抗体を投与した群に比べ有意に生存を延長させた。